



## 銅鏡

鏡は、神秘性をもつ呪術的なものとして関心がもたれ御神体として日本民族の信仰上の象徴であり、伝世の宝器として首長の権威を示す印でもあった。奈良時代になると、呪術性もうすれ化粧具として日常生活の中で使われた。又鏡は自分の心を写すものであるという道徳上の教えもあったと伝えられる。

一、蓬萊鏡 江戸時代

二、蓬萊鏡 桃山時代

三、菊花鏡 室町時代後期

四、蓬萊鏡 桃山時代

村指定 重要文化財

所在地 伊南村大字古町字小沼

二〇二五番地

管理者 金光山照国寺

指定年月日 昭和57年8月31日